

「アートキャンプ白州」

ART CAMP

とは何だったのか

theatre of hakushu

試展—白州模写

What's ArtCamp Hakushu?

2022.10.29[土]—2023.1.15[日]

開館時間：平日10:00~17:00、土曜・祝前日9:30~19:00、日曜・祝日9:30~18:00 最終入館は閉館時間30分前まで

休館日：月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始（12.29[木]—1.3[火]）

料金：一般：1,000(800)円 / 大高生・65歳以上：800(600)円 \*()内は20名以上の団体料金。\*中学生以下無料・障がい者手帳をお持ちの方とその介添者(1名)は無料

主催：市原湖畔美術館【指定管理者：(株)アートフロントギャラリー】 協賛：SUNTORY

市原湖畔美術館 ICHIHARA LAKESIDE MUSEUM  
千葉県市原市不入 75-1 <https://ism-ichihara.jp>

ICHIHARA LAKESIDE MUSEUM

# 試展—白州模写 ARICAMP 「アートキャンプ白州」とは何だったのか

**Event**

■ オープニングシンポジウム  
 10月29日(土) 13:00-14:30  
 出演：田中泯、名和晃平、巻上公一、北川フラム 他  
 参加費：1,000円(入館料別途) ※事前申込制

■ 田中泯「場踊り」  
 11月5日(土) 15:00  
 参加費：一般、大高生、65歳以上=2,500円、中学生以下=1,500円(入館料込み) ※事前申込制  
 当日14時~16時の入館はイベント参加者のみとなります。

◎詳細、申込は市原湖畔美術館ホームページをご覧ください。  
 ◎新型コロナウイルス感染症の状況により、変更、中止となる場合がございます。

お問い合わせTel: 0436-98-1525 E-mail: info@ism-ichihara.jp

高山登、原口典之、名和晃平、遠藤利克、剣持和夫、出展作家：榎倉康二、

現代における可能性を写し出す試みです。特別協力：田中泯、ゲストキュレーター：名和晃平

## 芸能と工作 大地との生存 — 舞踊・芝居・音 美術・物語・建築 映像・農業

1985年より山梨県白州に移り住み、「身体気象農場」を開き農業を始めたダンサー田中泯。その呼びかけのもと、1988年「白州・夏フェスティバル」はスタートしました。バブル経済が始まり都市への一極集中が加速する中、都市と農村という二分法を越え、その境界に新しい文化と生き方を探り、世代、ジャンルを越えた人々が世界中から集った4日間の「祭り」。やがてそれは生活と創造の過程に力点を置いた「アートキャンプ白州」へと展開していきましました。今も伝説のように語られ、人々の心に生き続ける「白州」。その大地でダンサー、音楽家、アーティスト、若者や子どもたちは何を体験したのか。本展は、映像、アート、パフォーマンス、シンポジウム、アーカイブ、出版等を通して白州での20



美術工作物「風の又三郎」(左より：剣持和夫、原口典之、遠藤利克、高山登、榎倉康二)



白州版「春の祭典」

舞踊「草原に鯨を見た」

舞踊劇「千年の愉楽」観世栄夫

マルセ太郎「仕草、身振り、表情」

モンゴル・サーカス



沖縄民俗芸能エイサー

トゥパのホーミー

ブータン仮面劇

ベトナム「黄色い竹の旅団」

チェコ人形劇「ピスカンデルドゥラ」



ミルフォード・グレイブス+田中泯

デレック・ベイリー、巻上公一、大熊ワタル他

セシル・テイラー

白州チンドン+ウベ・ワルタ

津軽三味線



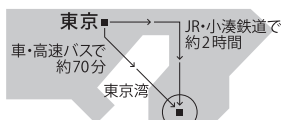
建築ワークショップ「天空の息—竹の家」

シンポジウム：中上健次 × 喜納昌吉

子供の体験疎開

ワークショップ「身体の夏学校」

甲斐駒ヶ岳神社代々御神楽



### アクセス

〔鉄道で〕 JR内房線 五井駅 小湊鉄道乗り換え→(約40分)→小湊鉄道 高滝駅→(タクシー約5分/徒歩約20分)→市原湖畔美術館

〔車で〕 東京湾アクアライン 川崎浮島JCT→(約40分)→圏央道(茂原方面)→市原鶴舞IC(出口左折約5分)→市原湖畔美術館

館山道→市原IC(国道297号線約35分)

〔バスで〕 バスターミナル東京八重洲 勝浦-東京線(11番のりば)→(約60分)→市原鶴舞バスターミナル→(タクシー約5分)→市原湖畔美術館

横浜駅 横浜駅東口ターミナル-茂原線(約80分)

羽田空港第1第2ターミナル-茂原線(約50分)

市原湖畔美術館 ICHIHARA LAKESIDE MUSEUM

千葉県市原市不入75-1 https://ism-ichihara.jp

